

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

|      |                   |     |              |                   |                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|-------------------|-----|--------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 法人名  | 社会福祉法人<br>やながせ福祉会 | 代表者 | 理事長<br>石田 文徳 | 法人・<br>事業所<br>の特徴 | 利用者の希望に合わせて、鍋料理と一緒に準備し、温かいものを食することができるように支援をすすめたり、目の前で天ぷらを揚げバイキング方式で提供している。また、四季を感じられるおやつを作ったりするなど一人ひとりの生活に寄り添った支援を行うことで、利用者が有している力の継続と潜在能力の活用に努めている。コロナ禍以前には、保育園児との交流を行ったり、地域交流室をいきいきサロンやいきいき百歳体操、子育て教室に開放したりしていたなど住み慣れた地域とのつながりも大切にしている。 |
| 事業所名 | 第二姫路・勝原ホーム        | 管理者 | 施設長<br>岸原 一広 |                   |                                                                                                                                                                                                                                            |

|     |       |          |           |     |       |            |       |       |     |     |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|-----|
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計  |
|     | 0人    | 1人       | 2人        | 2人  | 2人    | 1人         | 0人    | 2人    | 2人  | 12人 |

| 項 目                     | 前回の改善計画                                                                                                                   | 前回の改善計画に対する取組み・結果                                                                              | 意見                                                                               | 今回の改善計画                                                                                             |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A. 事業所自己評価の確認           | 各項目の改善計画を一覧表にし、連絡ノートの表紙に貼り付けるなど可視化に努める。<br>計画に関する伝達内容があれば、数日間、話し続け、意識化に努める。また、意見交換をもとに進捗状況を確認し、支援をすすめる。                   | 各項目の改善計画を一覧にし、目にする場所に掲示したが、多種多様な利用者支援から日常支援に追われ、意識化まで至らなかった。また、職員間での計画の進捗状況の確認や共通認識にもつながらなかった。 | 時間の許す限りの取り組みができていと思う。<br>・地域での暮らしを支えるための社会資源を見直し、話し合う機会を設けているかどうか。               | 各項目の改善計画を一覧表にし、連絡ノートに掲示することで一年を通じて課題に取り組めるように努める。<br>また、住み慣れた地域で利用者の望む暮らしを支えていけるように努める。             |
| B. 事業所のしつらえ・環境          | 利用者と接する時には表情や声のトーン、態度などに留意するとともに、言葉遣いにも気をつけ、気持ちたちが落ち着き、過ごしやすい環境となるように努める。<br>また、定期的に換気や消臭を行うことで、不快を感じない環境作りにも努める。         | 新型コロナウイルス感染予防のため、常に換気を行ったり、利用者同士の距離を保てるよう机の配置を変更したり、仕切りを置いた。                                   | 新型コロナウイルス感染予防のため、常に換気と消毒を行っている、との説明を受けている。<br>ホールや玄関に季節の花が生けてあり、四季を感じられるのではないかな。 | ホールの設えについては、利用者同士の距離を保ちながら、窮屈に感じないような空間作りに努める。<br>雰囲気については、利用者や接する時には、声のトーン、態度に留意する。                |
| C. 事業所と地域のかかわり          | 介護保険制度に加えて、認知症や介護技術、生活習慣病予防に関するセミナーを地域で開催し、情報発信に努める。<br>事業所の知名度を高めるため、地域行事に利用者と一緒に参加するように努める。                             | 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、セミナーの開催や地域行事への参加は行っていない。                                             | 職員の挨拶については、送迎時に気持ちのよい挨拶ができています。                                                  | 引き続き介護保険制度に加えて、認知症や介護技術、生活習慣病予防に関するセミナーを地域で開催し、情報発信に努める。                                            |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | 四季を感じられるようにドライブに出かけるなど、利用者に意向を伺いつつ、野外活動を企画し、実施する。<br>運営推進委員や地域包括支援センターとの連絡や連携を密にし、得た地域に関する情報を利用者に発信し、希望する地域行事などへの参加支援を行う。 | 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、ドライブに出かける機会が少なく、野外活動を企画することも難しかった。                                   | 可能な限りドライブにも出かけているのではないかな。<br>地域行事も徐々に開催されつつあるので、利用者も参加できればいいと思う。                 | 四季を感じられるようにドライブに出かけたり、事業所内でのイベントを企画し、実施する。<br>引き続き運営推進委員や地域包括支援センターとの連絡や連携を密にし、得た地域に関する情報を利用者に発信する。 |
| E. 運営推進会議を活かした取組み       | 会議の場で出た意見をもとに事業所として、可能な地域活動を検討し、実施する。<br>また、介護支援ボランティアの実習機関として、地域包括支援センターと協力して、活動内容に関する情報を発信し、普及に努める。                     | 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、運営推進会議の開催が難しかった。                                                     | 事業所での取り組みについては、小規模たよりを見て内容を理解している。                                               | 地域セミナー等を通じて、地域住民に事業所の認識と支援の特長への理解を深めることで、地域の中でできることを取り組めることを一緒に考えていく。                               |
| F. 事業所の防災・災害対策          | 定期的に行っている避難訓練への参加を家族や自治会役員に依頼し、訓練内容や福祉避難所としての役割について、説明する。<br>また、防災計画をもとに火災時の訓練だけではなく、地震や水害など福祉避難所の開設を想定した訓練を行う。           | 福祉避難所の開設を想定し、備蓄している非常食の試食を行った。<br>新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、定期的な避難訓練の実施が難しかった。                 | 今年度は、事業所の防災訓練に参加する機会がなかった。<br>余部校区に避難指示が出た時には、福祉避難所として事業所を開放していた。                | 引き続き定期的に事業所への避難訓練への参加を家族や自治会役員に依頼し、訓練内容や福祉避難所としての役割について、説明する。                                       |